

近森オルソリハビリテーション病院 理学療法科

科長 塩田 直隆

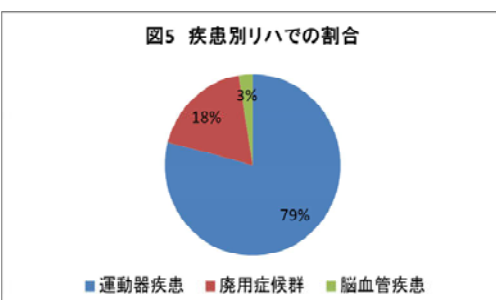
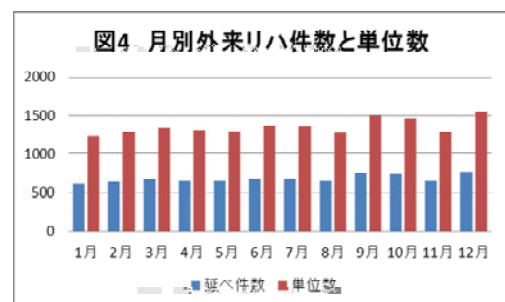
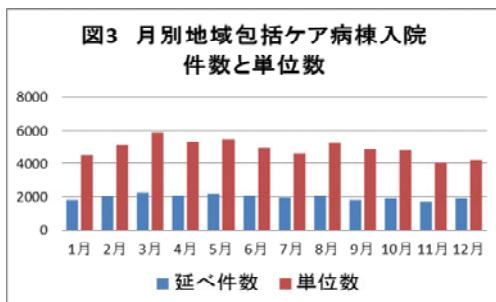
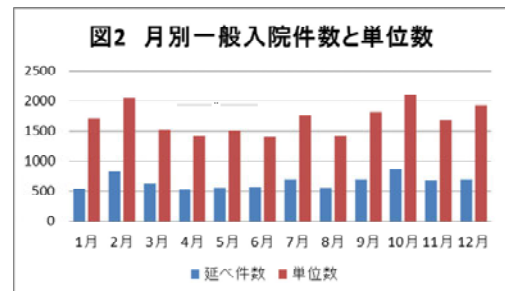
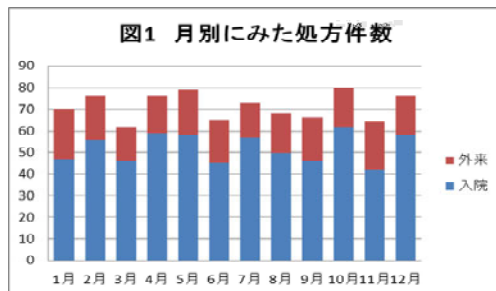
はじめに

2025 年は 31 名の体制で運営をスタートし、4 月に新人 2 名が入職。グループ内の施設間異動は 5 名実施し、育児休暇 3 名、中途退職 5 名含め、年末の現場スタッフは総勢 27 名（前年同月 30 名）で入院患者と外来患者に対してリハビリサービスを提供した。特に外来リハでは柔軟な対応を行うために 1 名増員し受入れ体制の拡大を実施した。

業務実績

月別でみた処方件数を図 1 に示す。入院は 626 件(前年 645 件)、月平均 52 件（前年 54 件）。外来は 229 件(前年 204 件)、月平均 19 件(前年 17 件)であり、入院は減少傾向となったが外来は微増となった。月別でみた一般入院患者さんの延べ実施件数と実施単位数を図 2 に示す。平均延べ実施件数 661 件(前年 622 件) 平均実施単位数 1693 単位(前年 1560 単位) 月別でみた地域包括病棟入院患者さんの延べ実施件数と実施単位数を図 3 に示す。平均延べ実施件数 1986 件(前年 2150 件)、平均実施単位数 4940 単位(前年 5698 単位)。地域包括ケア病棟では患者一人当たりの介入は平均 2.5 単位のサービス提供であった。月別でみた外来での延べ件数と実施単位数を図 4 に示す。平均延べ実施件数 679 件(前年 586 件)、平均実施単位数 1352 単位(前年 1180 単位)。前年度と比較し増加傾向となった。

入院患者理学療法施行による疾患別リハ割合を図 5 に示す。運動器疾患が 79%、廃用症候群 18%、脳血管疾患 3%であった。



2026 年度の方針

2025 年は外来リハビリスタッフを増員し受け入れ体制を強化し成果は出せたと思われる。入院に対しては整形外科疾患を中心に様々な疾患にも対応し機能回復だけではなく社会的・生活的な側面にも考慮したリハビリテーションサービスを実施し地域と連携して自宅に戻れるように努めた。引き続き質とサービスの向上に取り組み患者様に貢献出来るように努めていく。

また、診療報酬改定の年なので情報を職員間で共有しながら患者さまに診療体制の構築や患者様により良いサービス提供が出来るように取り組んでいきたい。

学術発表・講演会等

学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
首下がり症候群の改善に知覚運動課題が奏功した一症例	筒井俊宏 高知医療学院 八坂一彦	第 38 高知県理学療法学会	3 月 2 日 高知県
術後疼痛に知覚運動課題が奏功した腱板修復術後症例	筒井俊宏 高知医療学院 八坂一彦	第 13 回日本運動器理学療法学会学術集会	11 月 22-23 日 大阪
頸椎症性脊髄症におけるバランス障害に対する足底知覚トレーニングの効果	筒井俊宏 高知医療学院 八坂一彦	第 25 回認知神経リハビリテーション学会学術集会	11 月 29-30 日 大阪